

労働省労働市場センターの視察の概要

日 時： 2025 年 10 月 10 日(金)13:30～15:30

場 所： 労働省労働市場センター

参加者： (労働市場センター)スルヤセンター長、フィットリコーディネーターほか

(JJC)蜂谷労働委員長、小尾労働委員会・人材育成検討コミッティ委員、八田事務局長、
ユリア職員、高田オブザーバー、山田オブザーバー、川本 JICA 事務所員ほか

1. 労働市場センターの概要

- ・ 日本のハローワークを参考に 2021 年に設立。ウェブサイト上で労働市場情報を公表しているほか、求人・求職マッチング(シングル・プラットフォーム)のキャリア・ハブ(Karirhub)、就職面接会やジョブフェアの開催等の支援サービスを、対面・オンラインのハイブリッドで無料で提供
- ・ ウェブサイト: <https://paskerid.kemnaker.go.id/paskerid/public/>

2. 当日のセンター側の説明

(1)キャリア・ハブ(Karirhub)

- ・ 求人企業は、登録(BKPM の企業登録番号、求人を出す旨の届出が必要)後、求人情報の掲載(独自の求職者の条件付け(日本語レベル、技能実習経験の有無など)を設定可。企業 PR も可)、採用活動(サイト上での採用候補者の絞り込み検索も可)、採用後の報告等に活用可
- ・ 求職者は、自身の情報を登録して、求人や就職面接会に応募可能。センターでは、フォームの記載事項が足りていない点のサポートや、カウンセラーによる求職者の相談対応等を実施
- ・ 現在、求職者は 72 万人、これに対して企業の応募枠(求人)は 25,000 件。インドネシアの人口に鑑みると少ない。認知度の向上に努めているが、日系企業にもご登録いただき、システムをご活用いただきたい。(大学卒の求職登録者が増えているとの追加情報あり)

(2)就職面接会(ウォーク・イン・インタビュー)

- ・ 求人企業がセンターで開催。オーダーメイドなたちでの開催が可能
- ・ 視察当日は BRI 銀行の面接会(一次面接まで)。約 300 名が参加(若者が非常に多い)。
- ・ インスタや WA で求職者に周知。労働省 SNS から情報発信されるので、企業 PR となり、イメージアップにもご活用いただける。センターのアクセスが良く、多くの求職者の来場も見込める。
- ・ その他の企業にとっての主なメリットは、①必要な求人属性の絞り込みをした上で対面の面接に臨めること、②求職者との事前の調整・オリエンテーション(身だしなみや基本事項の連絡を含む)、面接当日のロジをセンターが代行可能なこと

(3)労働省ジョブフェア

- ・ 中央(ジャカルタ)と地方で開催。前回の中央フェア(5 月)は、日系企業は 8 社参加
- ・ 次回は 12 月第 2 週開催予定。多くの求人とともにより多くの日系企業にご参加いただきたい。

(4) その他

- ・ 労働市場情報を公表 (<https://paskerid.kemnaker.go.id/paskerid/public/informasi-pasar-kerja>)
- ・ インドネシアにおける新卒採用戦線は厳しい。企業は就労経験を求めがち。新卒者でも採用枠がないことはないが、業務の質が低いことが多い(例. オペレーター等の単純作業)。
- ・ 日本で技能実習を終えた実習生の 8 割は日本に戻っている。給与面での格差がネックとなり、インドネシアでの就労が滞っている(選ばれない)。
- ・ 新たな労働政策として、日当(最低賃金レベル)を国から補填する大卒者(D1～D3 を含む)向けインターン制度を開始。今年は 2 万人が対象だが、周囲からの評価も高く、来年も継続予定
- ・ 11 月 11 日(火)と 26 日(水)、労働省による表彰式(Nakerfest)がジャカルタで開催される。キャリア・ハブを積極的に活用している企業も表彰される。

3. 所感(山田)

- ・ 特に Jabodetabek 地域の求職者の登録は多く、ハイブリッドな採用活動の選択肢として有益
- ・ 労働省ジョブフェアは、多くの求人が参加要件となるが、企業 PR の機会としても効果的



写真上：労働市場センターのエントランスフロア(情報端末、職業相談コーナーや面接室がある)

写真下：BRI 銀行の就職説明会の参加者(大人数のためセンター外で呼び込み待ち)、視察後の集合写真